

大変！メダカが凍るよ

学校法人水谷学園 北陵幼稚園（島根県出雲市）[4歳児]

雪が早い時期から降り始め、ビオトープが凍結する日も増えて、例年の冬とは比較にならないくらい寒い日。A児の「メダカは大丈夫かな？」の一言が、子どもたちの心を揺り動かした。心配したみんなでビオトープの様子を見に行く。

<1月24日>「寒くてメダカがかわいそう」

- ・ビオトープのホテイ草が枯れていることや、メダカがいない様子に気付く。
- ・寒くて、死んでしまったのでは？草の下にいるのでは？冬眠しているのでは？などと話す。ビオトープに手を入れると、子どもたちは、あまりの冷たさに「メダカさんかわいそう」と心配する。



<1月27日～28日>「ビオトープに屋根を作ろう」

- ・特別寒い朝、B児が「ビオトープに氷が出来ているかな？」と言う。
- ・C児：「メダカさん、凍っていないかな？」D児：「氷取ってあげないと…」と氷を手で取り除く。C児：「ねー、-1℃だよ！今までで一番冷たい！」などと話す。「メダカがこのままではかわいそう」と、子どもたちは、ビオトープが全て凍らない方法を考える。
- ・網や段ボールを掛ける、レンガや木を使うなどの考えが出る。そして、木を使って屋根を作ることの思い付き、材料探しをする。小さな木を繋げようとするが、納得がいかない様子で、何度もやり直す。
- ・保育者は、子どもたちが帰った後、長い木、幅広い木などを近くに置く。
- ・翌日、屋根作りが始まる。子どもたちの考えで、長い木と幅広い木を三角になるように合わせ、釘を打つ。代わる代わる釘打ちをする。三角屋根がみんなの力で完成し、大喜びでビオトープに持って行き、置いてみる。
- ・置き場所をいろいろと変えて置いてみるが、ビオトープが半分しか隠れない。
- ・水温を計って、置く場所を決める（水温が高くなる場所に屋根を置く）。
G児：「太陽さんがこっちにたくさん当たっているから（水温が）高いね」



<1月31日> 「屋根を付けても。氷が張っている」

- ・「先生！大変！ビオトープに氷が張っている」と慌てて登園する。
F児：「屋根を付けてもだめだったか・・・」とがっくりと肩を落とす。
E児：「メダカさん大丈夫かな・・・」B児：「全部屋根がないといけんってことだね」
K児：「この隙間からヒューって雪が入り込んだんだ」
- ・保育室に帰り、どんな屋根がいいのか再びみんなで話し合う。



<2月1日>「屋根をテントみたいにしよう」

- ・四角い枠を作る子どもたち。一方ウレタンや梱包材を使ってテントにしようとする子どもたちもいる。
H児：「小さいとまた小さくてビオトープに届かないよ」G児：「本当だ…開いちゃっているわ」F児：「ここにビニールを掛ければいいよ」
- ・届かないと予想する所に梱包材を掛ける。少し隙間が出来ることが、ビオトープに持って行くことにする。
C児：「ここ（隙間）から餌があげられる！」G児：「温度も計れる！」
B児：「メダカも見えるね」F児：「いい屋根が出来たがね」



<2月2日>「メダカがいたよ！！」

- ・朝の第一声は、「屋根、大丈夫だったよ！」と言う声。C児：「やったね！！」と笑顔。
B児：「氷がないね…」A児：「屋根は濡れているけど」K児：「成功だね！」
- ・F児が、ウレタンのカバーをめくる。「わあー、メダカがいる！」と大声で叫ぶ。「2匹いた！」
C児：「あっ、ここにも2匹いた！」F児は、テントの隙間から見る。「あっ、ここにもいたよ。メダカさん」
保育者が「良かったね。みんなの心がメダカさんに伝わったね。メダカさんがいいお家をありがとうって話しているよ」と言うと、みんな満足そうな笑顔だった。

みどころ 冬ならではの厳しい寒さを自分たちが経験し、メダカの命を守ろうと子どもたちが心を動かしました。ビオトープが全凍結をしてメダカが凍らないように考えを出し合い、試行錯誤しながら取り組んでいます。保育者が子どもたちの心の動きを受け止め、子どもたちの思いが実現するまで寄り添い援助をしたことは、子どもたちの「科学する心」の育ちを支えています。